

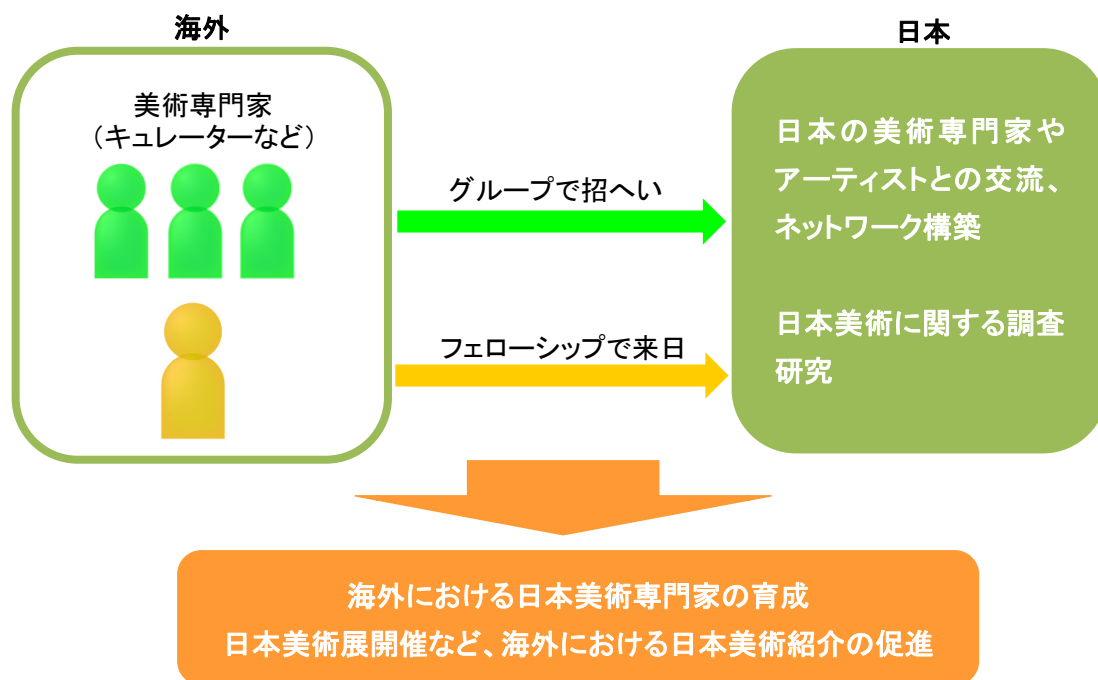
日本美術を海外で紹介する専門家を育成

～公益財団法人石橋財団と新事業を開始～

国際交流基金と公益財団法人石橋財団は、海外における日本美術の専門家の育成を目標とする新事業「現代美術キュレーター等交流事業」と「日本美術リサーチフェローシップ」を開始します。

40万人の来場者を記録したニューヨーク近代美術館での「TOKYO 1955-1970：新しい前衛」展（2012～13年）や、世界各国で開催され、多くの来場者を集めている「草間彌生展」に見られるように、近年、日本美術への関心・ニーズが高まっています。日本美術の海外紹介をさらに進めるには、海外美術館のキュレーター等、美術専門家に日本美術をよく知ってもらう必要がありますが、日本美術のリサーチや専門家同士のネットワーキングは十分に進んでいないのが現状です。

本事業では、海外の美術専門家を日本に招き、日本の美術専門家やアーティストとの交流や調査研究の機会を提供することで、日本美術の専門家を育成し、海外における日本美術の紹介を一層促進することを目指します。



記

【事業概要】

事業名称：石橋財団・国際交流基金 現代美術キュレーター等交流事業

石橋財団・国際交流基金 日本美術リサーチフェローシップ

主催：国際交流基金

特別助成：公益財団法人石橋財団

【プログラム①「石橋財団・国際交流基金 現代美術キュレーター等交流事業」】

趣旨：米国と欧州のキュレーターをグループで 10 日間日本に招へいし、美術館訪問、作品調査、日本の作家・キュレーターとの交流等を行います。また、交流の一環で、日本滞在中に国際シンポジウム等に参加し、発表を行います。

«2018 年度事業»

○スケジュール：

米国グループ 2018 年 10 月 11 日（木）～10 月 21 日（日）

欧州グループ 2018 年 10 月 26 日（金）～11 月 5 日（月）

○招へいメンバー（敬称略）：

米国グループ

Sara Krajewski ポートランド美術館 キュレーター

Nancy Lim サンフランシスコ近代美術館 アシスタント・キュレーター

Rory Padeken サンノゼ美術館 アソシエイト・キュレーター

Hui Kyung An グッゲンハイム美術館 アシスタント・キュレーター

欧州グループ

Pip Laurenson テート（英国）コレクション・ケア・リサーチ部門主席

Lindsay Taylor サルフォード大学（英国）キュレーター

Margit Rosen ZKM（ドイツ）コレクション・アーカイヴ・リサーチ部門主席

Renate Buschmann imai ファウンデーション（ドイツ）ディレクター

Agnieszka Kubicka-Dzieduszycka WRO アートセンター（ポーランド）プロジェクト・マネージャー

Daniel Muzyczuk ウッチ美術館（ポーランド）モダン・アート部門主席

【プログラム②「石橋財団・国際交流基金 日本美術リサーチフェローシップ」】

趣旨：日本美術についての調査研究計画をもつ海外の美術専門家に、フェローシップのかたちで最長 2 ヶ月間の日本での調査研究の機会を提供します。調査研究計画は全世界から公募し、審査の上で採用者を決定します。

○今後のスケジュール：

2018 年 9 月 募集開始

2018 年 12 月 3 日 申請締切（国際交流基金海外事務所ないし外務省在外公館にて受付）

2019 年 4 月 審査結果通知

2019 年 5 月～ 採用者の来日開始

○採用予定人数：

最大 10 名程度

○フェローシップ供与内容：

・往復航空賃（エコノミークラス割引運賃）

・滞在費

・海外旅行保険

・調査補助費

以上